

令和6年度 全国学力・学習状況調査の結果から

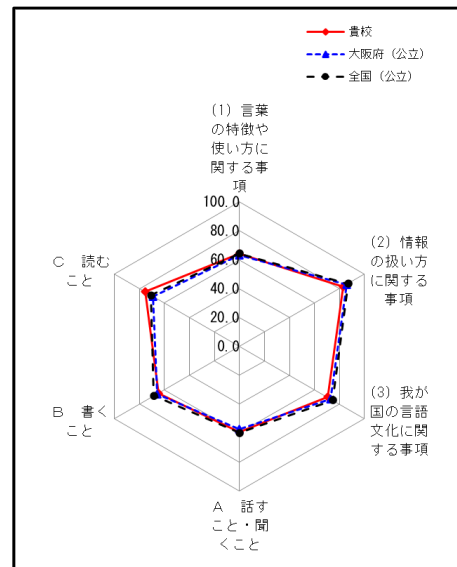
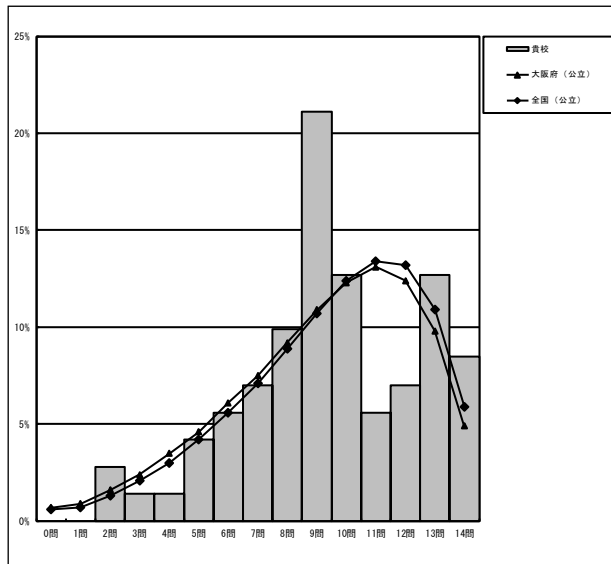
1. 各教科の結果から

(1) 国語

【概要】

本校の平均正答率は、全国平均や大阪府平均を上回った。

「読むこと」に関する問題は全国平均よりも高い。一方「話すこと・聞くこと」は大阪府平均よりも高いが、全国平均より低くなっており、「書くこと」については、全国及び大阪府ともに平均値を下回り低くなっている。



【成果】

- ・ 物語の全体像や登場人物の人物像を、具体的に想像することができている。
- ・ 資料を読み取り、その目的や意図を理解することができている。
- ・ 無回答率が低く、粘り強く課題に向き合うことができている。

【成果の要因】

- ・ 週1回のマシコレタイム(短作文ワーク)で、新聞やグラフ等の読み取りに取り組んだことが、様々な教科で資料を読み取る力に繋がったと考える。
- ・ 昨年度まで国語科で重点的に行っていた、「問い」を立てて解決していく「子ども論理」の授業が、物語文を読み取る力に繋がったと考える。

【課題】

- ・ 必要な情報を選択できているが、それを自分の言葉で書くことが難しい。
- ・ 相手にわかりやすく伝えるための方法が理解できていない。
- ・ 漢字が定着していない。

【課題の要因】

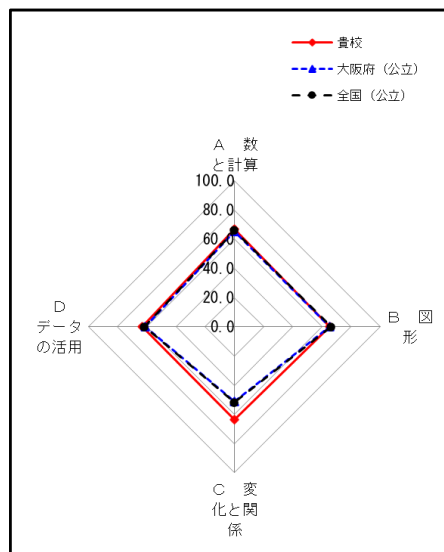
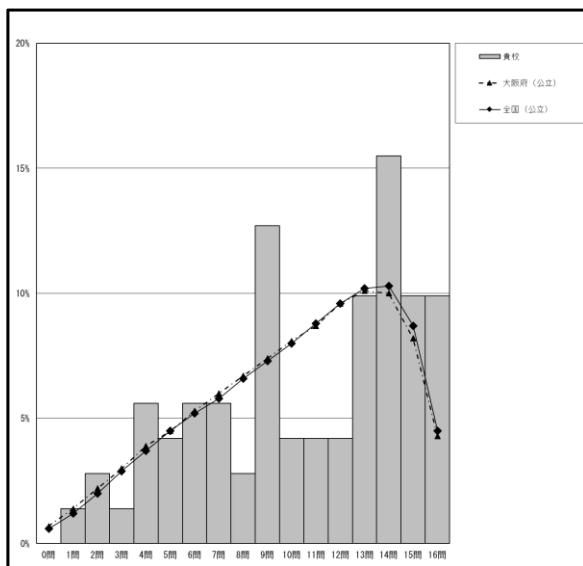
- ・ 普段の授業で、相手意識をもって伝える意識や態度を育てていない。
- ・ 普段の授業で、既習事項を使う意識や態度を育てていない。

(2) 算数

【概要】

本校の平均正答率は、全国平均や大阪府平均を上回った。

「数と計算」「変化と関係」「データの活用」に関する問題の正答率は、全国平均よりも高い。一方、「図形」については、大阪府平均よりも高いが、全国平均より低くなっている。



【成果】

- ・ 「道のり」「速さ」「時間」の意味や関係が理解できている。
- ・ データを整理したり、グラフの特徴を捉え、読み取ったりすることができている。
- ・ 無回答率が低く、粘り強く課題に向き合うことができている。

【成果の要因】

- ・ 週1回のマシコレタイム(短作文ワーク)で、新聞やグラフ等の読み取りに取り組んだことが、算数でも資料を読み取る力に繋がったと考える。

【課題】

- ・ 問題文から数量関係をイメージすることができていない。
- ・ 図形の構成の仕方や、図形の性質について理解できていない。
- ・ 記述式解答の条件が不足している。

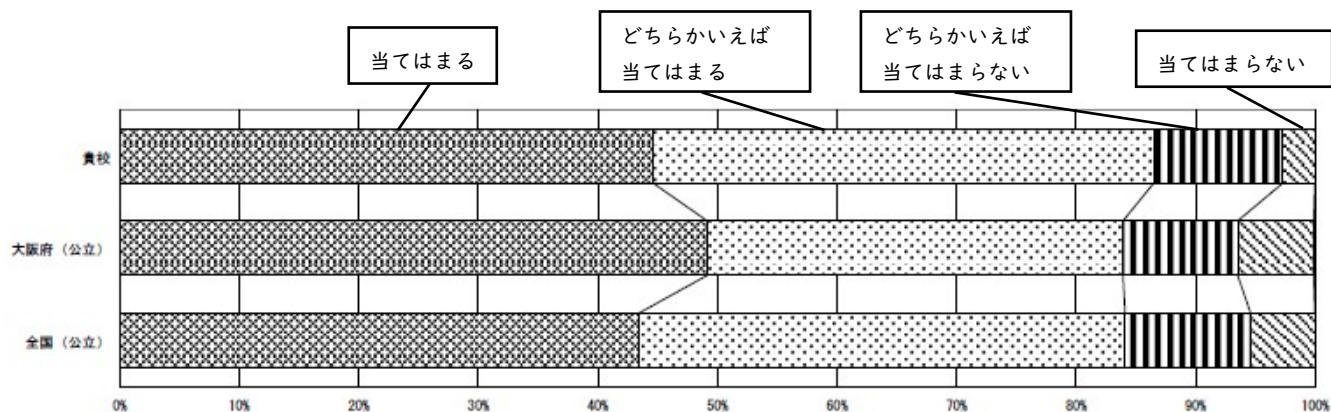
【課題の要因】

- ・ 図形を空間認識できるように、ICTを活用したり具体物を使ったりする方法が不足している。
- ・ 問われていることが何かを理解するための、問題文を読み解く時間が不足している。

2. 児童質問紙の結果から

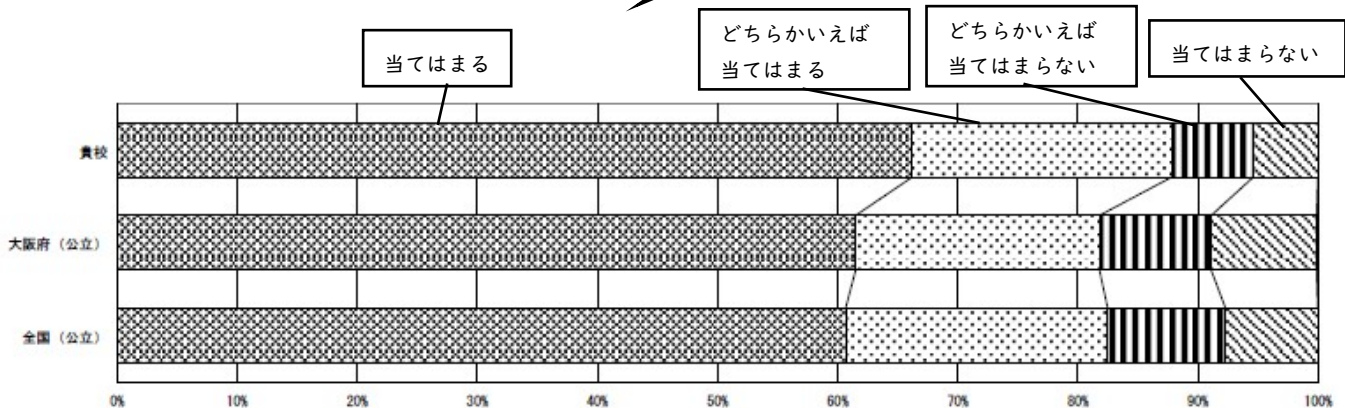
◇ 自分には、よいところがあると思いますか。

★自分のよさを認めることができ、自己肯定感の高い児童が多いです。



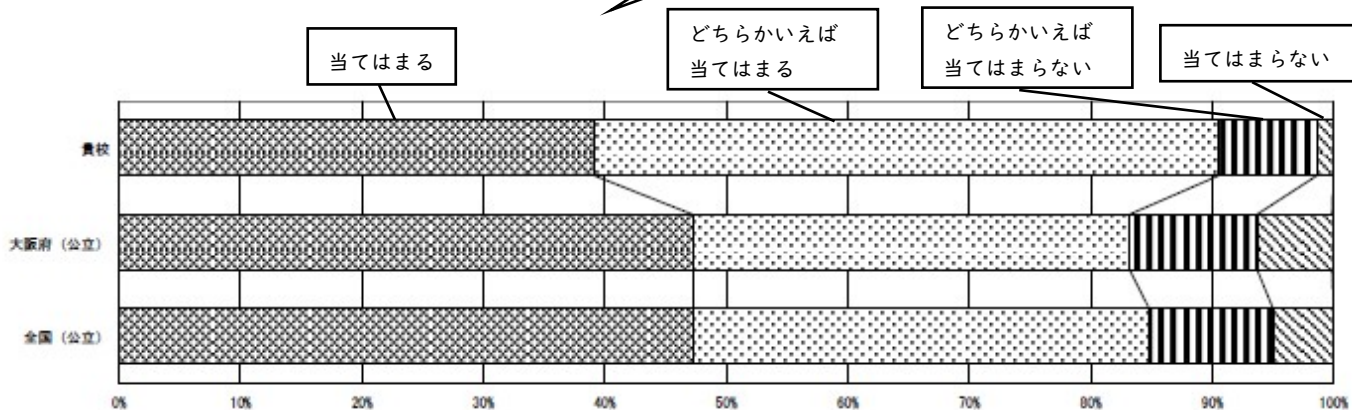
◇ 将来の夢や目標を持っていますか。

★多くの児童が、夢や目標をもつことができています。



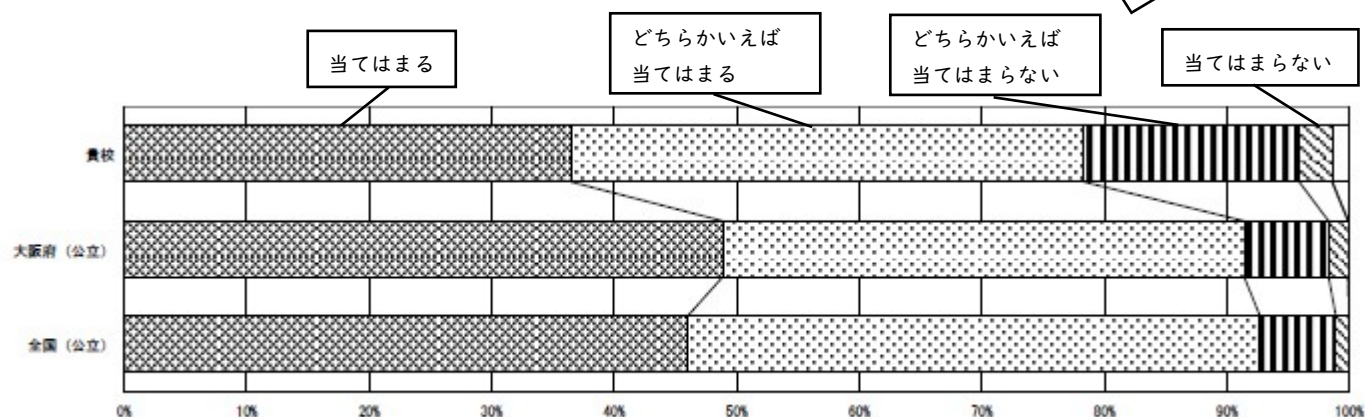
◇ 学校に行くのは楽しいと思いますか。

★90%以上の児童が、学校が楽しいと感じることができています。



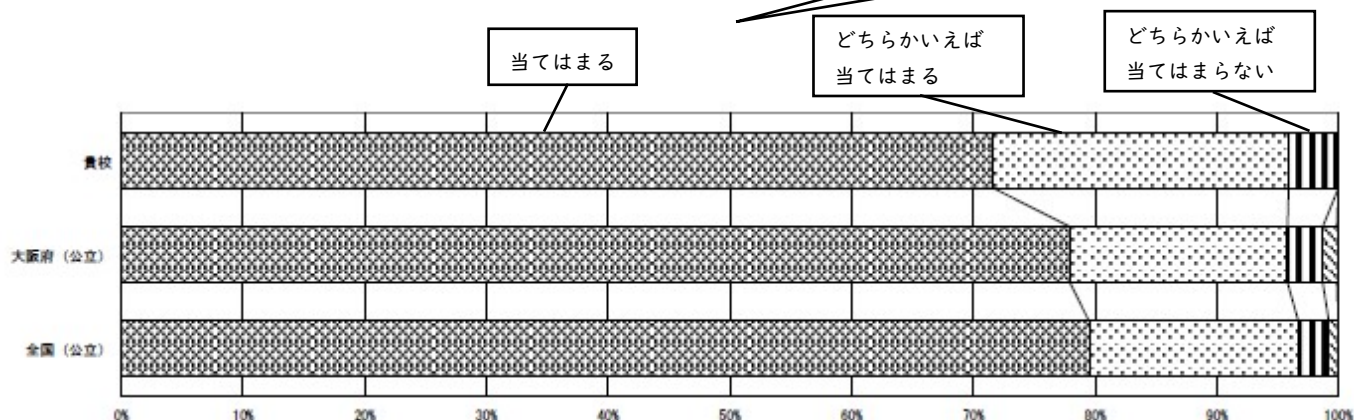
◇ 人が困っているときは、進んで助けていますか。

▲周りの人への関心が低い児童が、
全国や大阪府に比べて多いです。



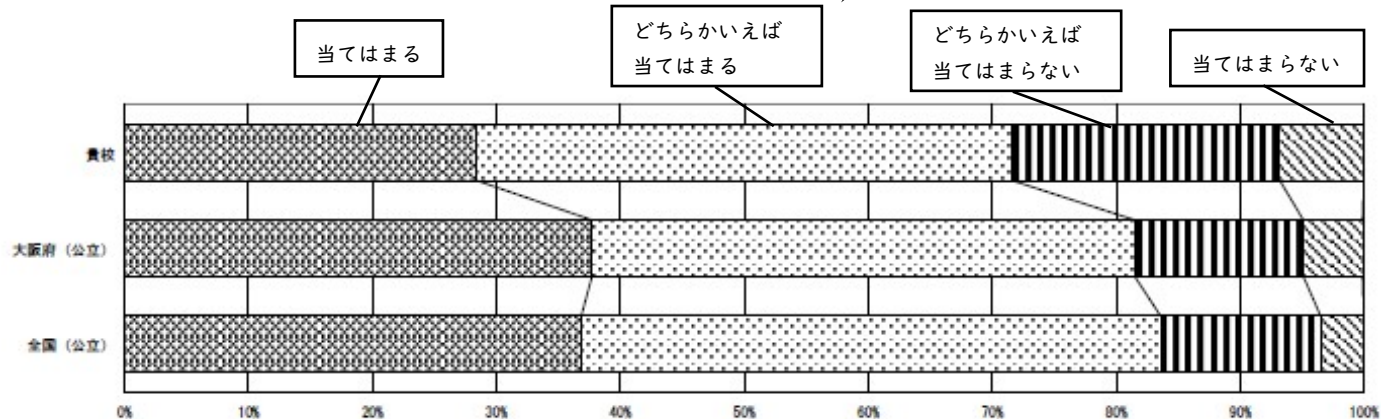
◇ いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。

▲いじめはいけないと強肯定できる児童が、
全国や大阪府に比べて少ないです。



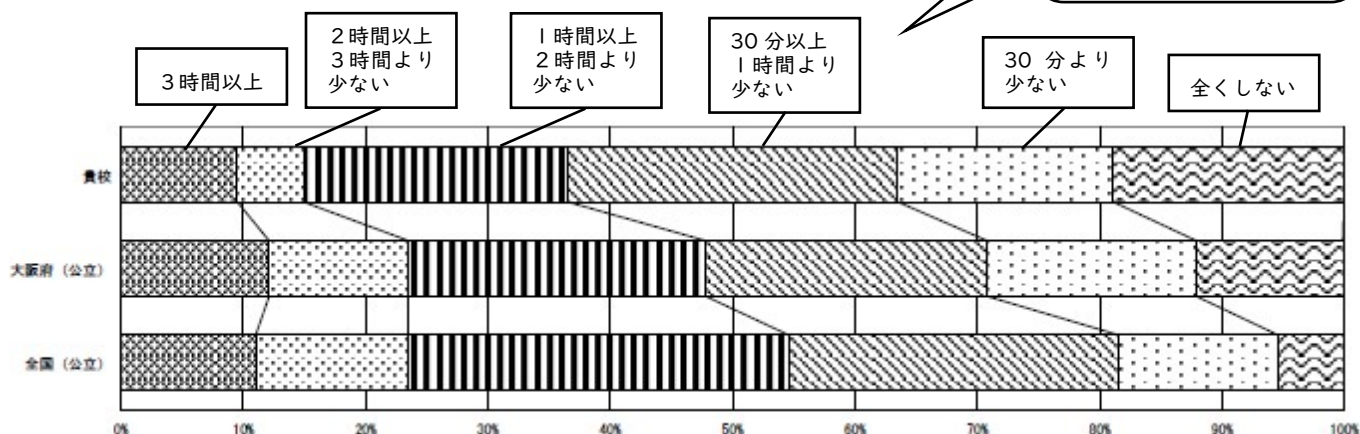
◇ 地域や社会を良くするために、何かしてみたいと思いますか。

▲地域や社会のために何かしたいと思
える児童が、全国や大阪府に比べて少
ないです。



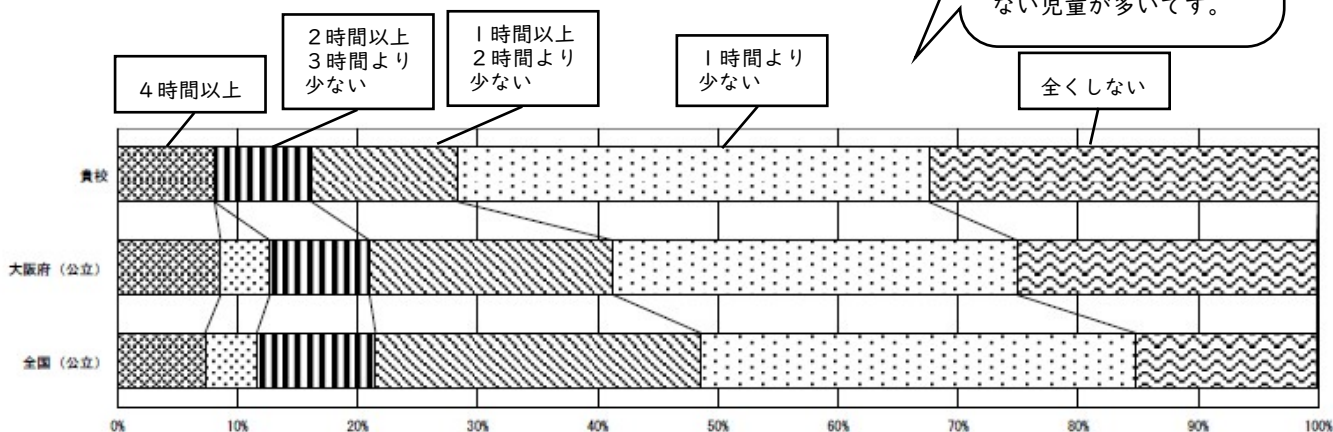
◇ 学校の授業以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。（学習塾で勉強している時間や、家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む。）

▲平日の学校以外での学習時間が、全国や大阪府に比べて少ないです。



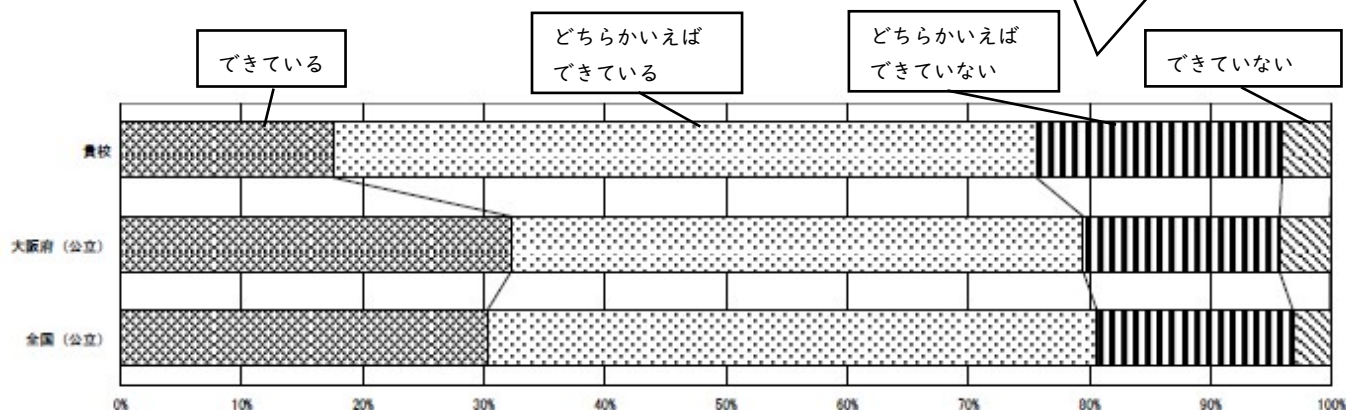
◇ 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。（学習塾で勉強している時間や、家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む。）

▲休日は平日よりさらに、学校以外での学習時間が少なく、全くしない児童が多いです。



◇ 分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできています

▲自分に合った学び方を見つけて工夫できる児童が、全国や大阪府と比べて少ないです。



【成果】

- ・ 将来の夢や目標をもっており、自己肯定感や幸福感が高い。
自分には、よいところがあると思いますか。肯定的回答率 86.5% (大阪 84% 全国 84.1%)
将来の夢や目標を持っていますか。肯定的回答率 87.8% (大阪 81.8% 全国 82.4%)
- ・ 学校に行くのが楽しいと思っている。肯定的回答率 90.6% (大阪 83.2% 全国 84.8%)

【成果の要因】

- ・ 授業のなかで対話を重点的に取り入れてきたことが、一人ひとりの考えやよさを認め合う意識を育んだと考える。
- ・ 児童会行事や掃除などで異学年交流を進めたことが、自己肯定感や自己有用間感を高めることに繋がったと考える。

【課題】

- ・ 家で学習する時間が、大阪府・全国平均よりも短い。
学校以外での学習時間が 1 時間以上 平日 36.5% (大阪 47.8% 全国 54.6%)
学校以外での学習時間が 1 時間以上 土日 28.4% (大阪 41.3% 全国 48.6%)
- ・ 周りの人や地域とのつながりが希薄である。
人が困っているときは、進んで助けていますか。肯定的回答率 78.4% (大阪 91.5% 全国 92.7%)
地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。肯定的回答率 71.6% (大阪 81.5% 全国 83.5%)

【課題の要因】

- ・ 授業のなかで、周りの人や地域とのつながりを感じられる取組みが少ない。
- ・ 自分の課題を見つけ、自分に合った学習方法を考える機会が不足している。

3. 改善策

(1) 授業改善

- ・ 授業のなかで「自己選択・自己決定」できる場を増やすことで、主体的に学習に取り組み、自分に合った学習方法を見つける力をつける。
- ・ 授業における目標(つけたい力)を明確にし、授業計画を実行する。
- ・ 生活科や総合的な学習の時間において、周りの人や地域の方々となつながらる機会を増やし、自分がクラスや地域の一員であるという意識をもてるようにする。
- ・ どの教科においても、学習用語を適切に使用し、自分の言葉でまとめていくことができるようにする。

(2) 学力向上への習慣化

- ・ 見通しを自分で立て、自分の言葉でまとめ、表現して書かせる。
- ・ 自分で課題を見つけて取り組めるようなチャレスト(自主学習)の推進を行う。(一中校区内で連携)
- ・ 読書(漫画や雑誌を除く書籍)の習慣を身につける。

(3) その他

- ・ 各学年で地域のことを考えたり、地域とつながったりできるような取組みを実施する。
- ・ 地域行事の情報発信を行い、参加を呼びかける。

4. スケジュール（改善策の具体的な実施）

- 通年 ○ チャレスタ（自主学習）の推進
 （チャレスタウィーク年 4 回、チャレスタコンテスト年2回 一中校区で取り組む。）
- マシコレ（条件付き短作文ワーク）の定期的な実施
- 本ごちタイム（定期的な読書タイム）の実施
- 8月 ○ 全国学力・学習状況調査及びすくすくウォッチについて、問題及び結果分析
 → 各学年の授業での意識向上・取り組みへ
- 9月 ○ 教職員間による相互参観（中学校区）
- 11月 ○ 教職員間による相互参観（校内）
- 公開授業研究会
 「つながりました 広がりました 深まりました
 ～自己選択・自己決定の場を通して 共感できる場面を増やす～」
 →ふりかえり・反省
- 12月 ○ 摂津市学力定着度調査実施
 →分析
 →取り組みへ
- 3月 ○次年度への引継ぎ